

# 知求会ニュース

2016年04月

第57号

## ◎ 他大学院・博士号取得、おめでとうございます！

**清地ゆき子 (KIYOCHI Yukiko)**(国際学研究科国際文化研究専攻・2期生)さんが、2016(平成28)年3月25日(金)に筑波大学大学院人文社会科学研究科国際日本研究専攻博士後期課程で、以下のように学位を取得されました。なお、知求会ニュース第57号の「博士録」コーナーで博士論文の概要を掲載しています。

学位名：博士(学術)

学位番号：博甲第7578号

学位授与機関：筑波大学

学位授与日：2015年12月31日

論文名：日中語彙交流における近代訳語の受容と変容—民国期の恋愛用語を中心に—

## ◎ 博士後期課程 博士号取得、おめでとうございます！

**趙 無忌**(国際学研究専攻・7期生)さん、**三成清香**(国際学研究専攻・6期生)さんらが、2016年3月24日(木)に昨年授与された今井淳雄さんらに続いて第16号・第17号の博士号学位を授与されました。

これまでの国際学部・国際学研究科(修士課程および博士前期課程)出身者の学位取得者は、博士(国際文化)(東北大学)・博士(文学)(名古屋大学) / (筑波大学) / (東北大学) 3名・博士(人文科学)(お茶の水女子大学)・博士(人文学)(パリ東大学)・博士(芸術学)(筑波大学)・博士(社会学)(一橋大学)・博士(農学)(東京農工大学連合大学院) 2名・博士(国際学)(宇都宮大学) 10名・博士(経済学)(名古屋市立大学)・博士(観光経営学)(慶熙大学校)・博士(人間・環境学)(京都大学)・博士(学術)(杏林大学)の計24名です。

## ◎ 博士前期課程、修了おめでとうございます！

2016(平成27)年3月24日(木曜日)午後1時10分から5号館A棟4階大会議室にて、2015年度学位記手渡し式が開催されました。

今回の修了者は、国際社会研究専攻の第16期生の**蔣百恵**さん・**黄平凡**さん、第15期生の**國谷祐輔**さん・**胡祥林**さんの4名でした。国際文化研究専攻の第16期生の**任 曉艷**さん・**シサリナ**さん・**赤羽聖史**さん・**金 ダヘ**さん・**呉 程穂**さん・**周 小琳**さん・**沈 宇萌**さん・**白 雨濛**さん・**白 小琳**さん・**方 婷婷**さん・**凌 晨**さん・**LIU XIAOBIN**さん・**郭 珺**さんの13名でした。国際交流研究専攻の第11期生の**BRAVO KOHATSU JOSE RAUL**さん・**王 厚鈞**さん・**孫 文慧**さん・**CHU YUAN**さん・**趙 俊**さん・**趙 美慧**さん・**橋脇 倫**さ

ん・李 海良さん・劉 明明さん、第 9 期生の熊倉百合子さんの 10 名でした。計 27 名でした。

17 年度より、学業優秀者に贈られる宇都宮大学奨学金(奨励賞)に、国際学研究科の 1 名としてブラゴ コハツ ホセ ラウル (国際交流研究専攻) さんが受賞されました。

## ◎ 教職員人事異動

### 梅木由美子元教授

留学生・国際交流センターの梅木先生が 3 月 31 日付で定年退職されました。先生は宇都宮大学に 1988 (昭和 63) 年 4 月に奉職され、28 年間在籍されていました。在籍期間中は本当にお疲れ様でした。

### 中田佐江子さん

総務係員の中田さんが 4 月 1 日付で経理課資金管理係へ異動になりました。後任には経理課資金管理係から篠原瑠美子さんが着任されました。

## ◎ 2 月入試合格結果

国際社会研究専攻	一般	0 名	・ 社会人	1 名	・ 外国人	2 名	計 3 名
国際文化研究専攻	一般	0 名	・ 社会人	0 名	・ 外国人	4 名	計 4 名
国際交流研究専攻	一般	0 名	・ 社会人	1 名	・ 外国人	9 名	
	国際交流		・ 国際貢献活動経験者	1 名			計 11 名
							合計 18 名

## ◎ 平成 27 年度 第 2 回 各学部等同窓会連絡協議会報告

2016 (平成 28) 年 2 月 23 日(木)午後 4 時から、宇都宮大学 UU プラザ(2 階)コミュニティフロアにて、平成 27 年度第 2 回 各学部等同窓会連絡協議会が開催されました。出席者は石田朋靖 学長・藤井佐知子 理事・池田幸 理事・伊東明彦 教育学部長・石井清 工学研究科長の大学側 5 名と事務局担当者 4 名、志村なぎさ 国際学部同窓会理事・土屋伸夫 国際学研究科同窓会会長・松本展壽 教育学部同窓会会長・小林哲夫 同副会長・増渕茂泰 同副会長・竹井誠 同副会長・阿久津嘉子 同事務局長・清水由行 工学部同窓会会長・上澤和彦 同副会長・和賀井睦夫 農学部峰ヶ丘同窓会会長・竹永博 同副会長の同窓会側 11 名でした。議事内容は、協議事項として、特になし。検討事項として、1. 各学部同窓会の活動報告等について、2. 大学に対する要望等について、3. その他、そして大学の現状報告等がなされました。

## ◎ 掲載記事紹介

1. 朝日新聞 朝刊 (平成 27 年 9 月 10 日発行) 29 面に、「宇大教員ら有志 99 人 安保法案反対の声明 きょう発表、廃案求める」の内容で、清水奈名子先生のコメントが掲載されました。

2. 下野新聞 朝刊 (平成 27 年 9 月 26 日発行) 20 面に、「日中の文化的違い理解を 県友好協会が講演」と題して、[松金公正](#)先生の記事が掲載されました。
3. 読売新聞 朝刊 (平成 27 年 10 月 18 日発行) 33 面に、宇大・読売共催講座「国際交流 誤解や摩擦も 第 3 回国際学部・松金教授」と題して、[松金公正](#)先生の記事が掲載されました。

### ◎ 国際学部だより

1. 読売新聞 朝刊 (平成 27 年 10 月 5 日発行) 31 面に、「イスラム教徒も安心観光 稲刈りなど体験」と題して、ハラール研究会の[斎藤夢子](#)さん(国際学部 3 年)のコメントが掲載されました。
2. 読売新聞 朝刊 (平成 27 年 10 月 8 日発行) 31 面に、「ムスリムへの理解 広める マレーシア出身・ファヒマさん」と題して、「日本の文化も帰って伝えたい」の内容で[ヌルー・ファヒマ](#)さん (国際学部留学生)の記事が掲載されました。
3. 下野新聞 朝刊(平成 27 年 11 月 3 日発行) 5 面に、「アジアの社会起業テーマにセミナー 宇大で 5 日」と題して、[国際学部附属多文化公共圏センター](#)の記事が掲載されました。
4. 下野新聞 朝刊 (平成 27 年 11 月 6 日発行) 3 面に、「打ち解けて政治が身近に 若者と宇都宮市議交流 宇大でポーターズ・バー」と題して、[佐藤春菜](#)さん(国際学部 2 年)のコメントが掲載されました。

### ◎ 宇都宮大学公開講座 (地域連携教育研究センター主催) 定員200名 無料 全3回

1. 読売新聞社・宇都宮大学共催公開講座 12月17日 (土) 13:30~16:00  
「伝え方」と「伝わり方」との隙間 – 記事の「書き手」と「読み手」との対話 –  
話題設定の仕方から捉え直す国際学  
– 「気にしすぎる」と「知られないままのこと」 [松金公正](#)国際学部教授

### ◎ 宇都宮大学公開講座 (地域連携教育研究センター主催) 有料

1. 里山で楽しむランブリング [平井雅世](#)(コーディネーター)  
(国際社会研究専攻・第4期生)
2. タイ料理入門 タイ料理研究家 [泉田スジンダ](#)先生
3. 韓国語講座 [丁 貴連](#)先生(コーディネーター)  
中級コース I・中級コース II [金 多希](#)国際学部非常勤講師  
(国際文化研究専攻・第8期生)
4. 漱石のすべて [小池清治](#)国際学部名誉教授・  
漱石のすべて I・漱石のすべて II 作新学院大学客員教授
5. シャーロック・ホームズの世界に遊ぶ [大関清太](#)工学部名誉教授  
[高際澄雄](#)国際学部名誉教授 他

6. 文化と人生 神長善次 元国際学部客員教授
7. ラフカディオ・ハーンと日本 丁 貴連 先生(コーディネーター)  
 - 日本に魅せられた八雲の世界 - 三成清香 宇都宮文星短期大学非常勤講師  
(国際交流研究専攻・第7期生)
8. ベーテルを考える (医療・福祉の町) 橋本 孝 国際学部名誉教授  
 詳細は以下のHP をご覧ください。  
 ([http://www.utsunomiya-u.ac.jp/cercc/course\\_list.html](http://www.utsunomiya-u.ac.jp/cercc/course_list.html))

#### ○刊行案内

1. 中村祐司 先生が、2016(平成 28)年 1 月 20 日に『スポーツと震災復興』(成文堂)を刊行しました。(<http://www.seibundoh.co.jp/pub/search/029518.html>)
2. 佐藤嘉幸 先生と 田口卓臣 先生が 2016 年(平成 28)年 2 月 23 日に、『脱原発の哲学』(人文書院)を刊行しました。(<http://www.jimbunshoin.co.jp/book/b214457.html>)
3. 田口卓臣 先生が 2016 年(平成 28)年 3 月 10 日に、講談社選書メチエ 619『怪物的思考 近代思想の転覆者ディドロ』(講談社)を刊行しました。  
 ([http://bookclub.kodansha.co.jp/product?isbn=9784062586221&\\_ga=1.243677645.995740587.1459153602](http://bookclub.kodansha.co.jp/product?isbn=9784062586221&_ga=1.243677645.995740587.1459153602))

#### \* 『HANDS next—とちぎ多文化共生教育通信』のお知らせ

2007 年 9 月 20 日に、ニュースレター『HANDS』第 1 号が発行されました。2010 年度より宇都宮大学特定重点推進研究グループ通信『HANDS』がリニューアルされ、『HANDS next』として再出発することになりました。

#### 第 21 号(2016 年 2 月 15 日)

HANDS プロジェクト 6 年目を終えるにあたって

国際学部長 HANDS プロジェクト代表 **田巻松雄**

第 3 回外国人児童生徒支援会議報告—18 回目の支援会議—

国際学部特任准教授 **若林秀樹**

「多言語による高校進学ガイダンス」開催報告

HANDS プロジェクトコーディネーター **船山千恵**

本学における「多言語による高校進学ガイダンス」体験談発表より

神奈川大学経営学部 4 年 **LUU THI HAM Y LINH**

(ルー ティ ハミリン)

真岡市「AMAUTA」での夏期集団学習支援報告

「初めて目にした小さな世界」

国際学部 3 年 **梅津杏菜**

グローバルツアー2015に参加して グローバルツアー2015 報告①

教育学部 1年 出井友香里

行政担当者の話を聞いて グローバルツアー2015 報告②

教育学部 1年 岡本紗英

第7回グローバル教育セミナー報告

国際学研究科博士後期課程

多文化公共圏センター研究員 根本久美子

大学生での真岡市外国人児童との交流

国際学部 2年 渡邊 翼

「外国につながる子どもフォーラム 2015」報告

国際学部 1年

フォーラム学生実行委員長 冲館由依

真岡市での「イヤードパーティー」に参加して

国際学部 1年 大城明美

進め日本語教室 第11回 共に学ぶ先生として

宇都宮市立旭中学校講師 佐藤愛美

シリーズ；学生ボランティア派遣体験記 17

「知りたい」と「こたえたい」が出会う場所

国際学部 1年 早川史花

事務局だより

—平成27年度宇都宮大学 HANDS プロジェクトの活動—

**研究室訪問 46** 第9号から国際学研究科に関係する内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。第46号は予定の寄稿者から承諾を得られず未掲載になります。

**博士録 34** 第22号から今後の博士誕生を鑑み、新コーナーを設けました。第34回目には佐々木一隆研究室 OG の**范喜春**さんをお願いしました。

## 日本語と中国語における数量表現の対照研究

—形式と意味の観点から—

范喜春

### 1. 博士論文の概要

本論文の目的は、『中日対訳コーパス（第一版）』の文学作品と非文学作品および母語話者の内省に基づいて、日本語のQ/NC型（例：三冊の本を）、NCQ型（例：本を三冊）、N/QC型（例：本の三冊を）、NCQ型（例：本三冊を）を含む原文とそれらに対応する中国

語の訳文を取り上げ、形式と意味の観点から数量表現を考察し、使用頻度も見ながら両言語の対応関係および対応関係に関わる規則性を示して、こうした対応関係から得られる説明への示唆を行うことでした。Qは数量詞、Nは名詞、Cは格助詞をそれぞれ表します。

第一章では、形式、意味などの観点に基づく先行研究の問題点を指摘した上で、本論文がめざす方向性と方法論の妥当性について述べ、本論文の目的を示しました。第二章～第五章では、既存の研究では指摘されていなかった日本語と中国語における数量表現の対応関係を指摘しました。第六章では、第二章から第五章までの両言語の対応関係の考察から、両言語数量表現に関する説明への示唆が三つ得られました。最後に第七章では、本論文における言語研究上の意義と外国語教育への応用の可能性について述べました。それらをまとめると、以下のようになります。

#### 1) 言語研究における意義

- ①本論文により、既存の研究では指摘されていなかった言語事実を示した。
- ②第二章から第五章までの日中数量表現の対応関係の考察から、両言語数量表現に関する説明への三つの示唆を与えた。
  - ・日本語におけるQノNC型、NCQ型、NノQC型、NQC型の4種類の数量表現が、4つの共通点があることに起因して、中国語qn型ともっとも高い頻度で対応すること。
  - ・両言語の数量表現には、ある特定の意味を表す時にはある特定の形式を用いる傾向があること。
  - ・日本語数量表現QノNC型には曖昧性が存在しているが、中国語数量表現には日本語数量表現QノNC型に見られるような曖昧性がないこと。
- ③言語事実についての考察を、コーパスに基づく大量の事実観察を行い、内省も併用するという方法論を用いる妥当性を示した。

#### 2) 外国語教育への応用

両言語における数量表現の様々な対応関係の規則性は、日本語母語話者を対象とする中国語教育および中国語母語話者を対象とする日本語教育の現場において、数量表現の指導とそれぞれの学習者の数量表現の理解に貢献する可能性がある。

## 2. 感謝

私が博士号を取得できたのは、諸先生のお陰です。本当に感謝しています。

私は博士前期から後期修了までの五年間、佐々木一隆先生の研究室にて研究活動を行ってきました。この五年間、先生には大変お世話になり、本当にありがとうございました。研究活動においては、研究の方針から、論文の書き方、文法面、書式などに至るまで、終始精細にご指導いただきました。改めて今、自分の博士論文を読み返すと、章ごとに先生の丁寧かつ熱心なご指導の様子を思い出します。先生からはいろいろなことを学びました。

特に、研究と仕事に対する姿勢です。佐々木一隆先生に指導していただいて本当に運がよかったと思います。

副指導教員の倪永茂先生、松金公正先生には博士論文の執筆になくてはならない貴重なご意見、ご指導をいただきました。また、論文の草稿を読んでいただき、有益なご指摘をいただくこともできました。前副指導教員の内山雅生先生には、博士1年と2年の時にご指導を受け、厳しくも温かなご助言をいただきました。副指導教員の諸先生に心より感謝申し上げます。

審査員の高際澄雄先生、梅木由美子先生、学外審査員である東京学芸大学の鈴木猛先生には博士論文予備審査の際に的確かつ貴重なコメントをいただき、予備審査後にも博士論文の修正についてご指導をいただきました。ここに深く御礼を申し上げます。

また、国際学研究科の高山道代先生、吉田一彦先生には本研究について大切なお助言を、麗澤大学の千葉庄寿先生、北京日本学研究中心の曹大峰先生にはコーパス購入時にご協力をいただきました。さらに、中国チチハル大学の日本語専攻主任の趙春娥先生、黄麗媛先生には臨地研究にご協力をいただきました。心から御礼申し上げる次第です。

日本語表現をチェックしてくださいました国際学研究科博士前期課程の石崎達也さん、栃木県立宇都宮南高等学校の長谷川良子先生、友人の中谷孝子さん、金子将憲さんにも厚く御礼を申し上げます。日頃の研究活動でお世話になりました佐々木一隆研究室の皆様をはじめとする、国際学研究科の皆様にも御礼を申し上げます。

これらの方々のご指導やご支援なくしては、博士号は取得できなかったと思います。この場をお借りして感謝の意を表します。

### 3. 後輩への助言

現在、中国のチチハル大学で日本語の専任講師をしています。博士号が取得できて本当によかったと実感しています。現在の身分が保証され、教育と研究を続けて行く基盤を得たからです。そこで後輩の皆様のために、博論作成への助言を二つ私なりに述べさせていただきます。

一つは、研究計画は予定通りに進められない場合が多くあるので、余裕のある計画を立てる必要があると思います。もう一つは、人とのつながりを大切にすることです。博論完成までの過程は心身ともに大変なエネルギーが必要とされます。基本的に論文執筆は孤独な作業であり、時には不安や重圧感のために停滞することはありますが、そうした時に支えてくれる周囲の人たちの存在は大きいと思います。指導教員・審査員を始めとする学内外の諸先生、研究科の学生仲間、友人とのネットワークは貴重であり、こうした人たちと積極的にコミュニケーションをはかる勇気と行動力が必要ではないでしょうか。

(国際学研究科 国際交流研究専攻 第6期修了生 / 国際学研究専攻 第5期修了生)  
(2015年11月17日原稿受理)

博士録 35 第 22 号から今後の博士誕生を鑑み、新コーナーを設けました。第 35 回目には小池研究室 OG の清地ゆき子さんをお願いしました。

## 『日中語彙交流における近代訳語の受容と変容 — 民国期の恋愛用語を中心に —』

清地 ゆき子

### ◆ 博士論文の概要

はじめまして。国際学研究科三期生（2003 年修了）の清地ゆき子と申します。私は昨年末、筑波大学に博士論文『日中語彙交流における近代訳語の受容と変容 — 民国期の恋愛用語を中心に —』を提出しました。

本論文は、近代の日中語彙交流研究の空白を埋めることを第一の目的として、日本で生成された近代訳語が中国語に受容され変容した様相を民国期の恋愛用語を中心に考察したものであります。20 世紀初頭、政治・経済・教育等の人文社会科学系の近代訳語が清国留学生らにより中国語に大量に逆移入されたことは、既に多くの研究成果により明らかにされておりますが、1910 年代後半以降の日中語彙交流研究は多くはありません。1910 年代後半、中国で五四新文化運動が展開される中、日本や西洋の文学が数多く翻訳され、西洋の恋愛思潮が中国にも紹介されました。日本では明治期に、既に西洋の恋愛思潮が紹介され、その際に近代訳語が訳出されておりました。日本で訳出された近代訳語は、翻訳を通して日中同形語として中国語に受容されることとなります。但し、中国語での受容の様相は様々で、同義的語彙が中国語に既に存在する場合には類義語が発生したり、或いは日中同形異義語や異形同義語を形成したりすることになります。

本論文では、このような現象がどのような要因により生じたのか、先行研究における「日中間での訳語の生成と伝播の普遍的パターン」（4 分類）に倣いつつ、更に 2 分類を加えることにより、近代の日中語彙交流により発生する現象の多様性を検証しました。

論文構成は以下の通りです。

#### 序章

第 1 章 恋愛用語の受容と変容の背景

第 2 章 新概念の受容と古典語の転用 — 〈恋愛〉の成立をめぐって—

第 3 章 和語と和製漢語の中国語への移入 — 〈初恋〉と〈失恋〉を中心に—

第 4 章 類義語の発生 — 〈恋人〉の移入をめぐって—

第 5 章 近代訳語の意味の変遷と収斂 — 〈自由恋愛〉の解釈をめぐって—

第 6 章 異形同義語の成立 — 〈三角関係／三角恋愛〉の成立—

第 7 章 近代訳語の変容 — 〈同性恋〉の成立をめぐって—

#### 終章

先ず、上位概念語としての近代訳語「恋愛」が、明治期に西洋の恋愛思潮を受容する際に、中国語から語形を借用し、現代語のような意味・用法を獲得し、この意味・用法は中

国語に逆移入され現代中国語にも継承されていることを明らかにしました。次に下位概念語として和語「初恋」「恋人」や和製漢語「失恋」「自由恋愛」「三角関係」「同性愛」が同形語として中国語にどのように受容されたのかを、文学作品での使用例や知識人の言説を加えて分析しました。日本で訳出された「三角関係」「同性愛」が、中国語には「三角恋愛」「同性恋」といった異形同義語として定着した要因として、中国語と日本語の言語上の特性のほかに民国期の文化や社会の背景が関連していることを指摘できたことは、語彙研究を軸とし、文学的考察を加えた本論文の研究成果であります。

また本論文では、民国期に日本語から「初恋」や「恋人」「失恋」といった「恋」の熟語が受容されたことは、現代中国語において「婚外恋」や「黄昏恋」のような「恋」の熟語の造語に影響を及ぼしていることを指摘し、このような研究成果は日中の言語接触の研究や語彙の対照研究に寄与するものであると結論付けました。

#### ◆後輩の皆さまへ

大きな声では言えませんが、筑波大学で博士（学術）の学位を得るまでに、12年の歳月を要しました。筑波大学大学院に入学する前に、宇都宮大学大学院で修士の学位取得に要した3年間（1年間休学）を加えると、相当の年月を大学院で過ごしたことになります。

私は40歳半ばまで、一般企業で二十数年働いておりました。期せずしてやってきたのがリストラの波でした。在職中に中国語と関わっていたこともあり、リストラを好機と捉え、退職後は中国語の習得に努め、宇都宮大学大学院に社会人入学することができました。入学以降、故加藤二郎先生には研究の厳しさを、小池清治先生には研究の面白さと奥深さを教えていただきました。修士論文を提出したのち、松金公正先生や丁貴連先生には筑波大学大学院で研究を続けることを薦めていただきました。

気を良くして、筑波大学大学院入学の受験に挑んだものの、入試もその後の研究生活も順風満帆ではありませんでした。一般入試で修士課程に入学するのに2年かかり、修士論文作成の2年を経た後、後期博士課程に入学するまでに4年の年月を経ることとなりました。社会人を経たからの研究ですから、困難は当然のこととはいえ、長い道のりでした。幸いであったのは、入学するまでの間、研究生や科目等履修生として、研究を進めることができたことです。特に後期課程入学前の4年間は、数種の学会や研究会に所属し、国内外での研究発表や論文の投稿を積極的に行いました。査読付きの論文が学会誌に初めて掲載されたのもこの時期でした。

博士後期課程に入学後の4年間は、先が見えない長いトンネルの中でした。越えなければいけないハードルがいくつもあり、少し明かりが見えたかなと思うと、すぐに消えてしまうという連続で、常に自分との戦いでした。落ち込んでしまうこともありました。そんなときに、いつも励ましてくれたのが親子ほどの年齢差のある学友であり、厳しくも時にやさしく背中を押してくださった主指導や副査の先生方でした。

振り返れば、七転び八起きどころか、九転び十起きの12年、いや15年間でした。今よ

うやく研究のスタートラインに立てたところです。これからは、私なりの社会貢献の道を見つけようと思っております。

私の体験談は、現在論文作成の渦中にある皆さまの模範になるようなものではありませんが、毎日毎日少しずつ研究を重ねることにより、必ずトンネルを抜けることができると自信をもってもらえたら幸いです。健康に留意して、がんばってください。

(国際学研究科 国際文化研究専攻 第2期修了生)

(2016年3月20日原稿受理)

**知究人 28** 第9号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー(ちきゅうびと)を設けました。今回は予定の寄稿者から入稿がありませんので未掲載になります。

**海外だより 22** 第27号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。今回は寄稿者がいませんので未掲載になります。

**海外留学今昔 16** 第35号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者**および**海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

## 「様々なアイデンティティーが行き交う台湾」

宮平 睦月

2014年の夏から台湾の政治大学に1年間留学させていただきました。私が台湾への留学を希望した理由は2つあります。1つは大学で第二外国語として学んでいた中国語の向上、またもう1つは「民族」をテーマとした研究を通し、台湾のことをもっと深く知りたかったためです。留学する場所として選んだ政治大学は台北市の東南にあり、観光地として有名な猫空から近い位置にあります。大学周辺は山や川などといった自然に囲まれており空気が綺麗なところです。

政治大学では語学センターで毎日中国語の授業を受けていました。クラスには世界各国から留学生が集まっており、授業は中国語でしたが普段の会話は中国語と英語を交えて会話していました。中国語の文法や単語を学ぶだけではなく、中国語で自分の国の文化や政治についてプレゼンテーションで紹介する機会も多かったので、台湾のことだけではなく世界各国の情勢についても学ぶこともできました。後期からは中国語も上達したので一般学生と同じ授業を聴講していましたが、やはり内容が難しく図書館にこもることもあり、台湾人の友達にも手伝ってもらい何とか授業についていくことができました。

授業以外では週2で部活動に参加したり、また民族についても知るため少数民族が住んでいる烏來や花蓮へ訪ねたりしていました。台湾はグルメが多く、また食費も日本に比べ

すごく安いので毎日外食してもあまり出費が気になりません。そのため週末以外でも、平日授業や課題を終えた後にみんなで出店が並ぶ夜市に行くこともよくありました。物価が安いので留学期間中に台湾に遊びにきてくれた友人も多く、授業のクラスメイトや部活の友達も一緒に観光し各国間での文化交流も深めることができました。

留学中とても印象深く残ったことは、台湾人の友達に台湾映画「セデック・バレ」を見ることを勧められたことです。かつて台湾で実際に起きた抗日暴動事件である「霧社事件」について描かれた映画でした。台湾はかつて日本の植民地だった過去があるにも関わらず、親日国というイメージが強くあり、私自身そのことをすごく疑問に思っていました。しかし実際に台湾に長く滞在し感じたことは、親日国というよりは日本の文化や言語が今もまだ強く残っており、また 16 の少数民族・客家人・もともと台湾に住んでいた本省人や中国大陸から来た外省人など様々なアイデンティティーが入り混じったとても複雑な国だと思いました。この留学生活を通して語学の向上だけではなく、日本の歴史を再確認したり、自分のアイデンティティーについても考えるようになりました。

最後に、今振り返ると大学に入学する前はただ台湾に留学することに憧れており、留学自体を目標としていましたが、そうではなく、留学先で自分は何を学びたいのか、またその学んだことを帰国後どう活かしていきたいかという明確な目標がないと、この限られた留学生活を十分に送ることはできないと実感しました。そのことを留学前に気づかせてくれた先生や先輩方、また留学の手続きなどをしてくださった職員方に感謝しています。留学で学んだことがただの思い出とならないよう、これからも日本と台湾の文化交流に積極的に携わっていきたいと思います。

(国際学部 国際社会学科 4 年次在学学生)

(2015 年 09 月 25 日原稿受理)

## 「台湾留学を振り返って」

匿名

9 月 11 日午前 11 時。桃園空港発成田空港行きの飛行機に乗り込み、どんどん離れていく台湾を小さな窓からずっと見ていたことが昨日のここのように思い出されます。1 年と 2 週間、長かったような短かったような留学生活の終わりでした。交換留学生として台北に位置する国立台湾師範大学に派遣されてからの日々は、新しい発見と出会いの連続で刺激的でした。留学中、私は学習とクラブ活動に注力し、その中で様々な国籍の友人と交流を深めてきました。今回はこれらについて紹介させていただきたいと思います。

学習については、大学と語学学校という 2 つの軸で進めていました。台湾に着いて間もないころは、中国語がほぼ聞き取れず、簡単な単語さえも満足に発音できないような状態でした。そこで、最初の半年間は大学内に併設されている語学学校に通い、毎日 3 時間の授業を受けて語学力の向上に努めました。そして基礎力が固まってきた後半の半年間は、語学学校と並行して大学の授業も履修する、という形をとりました。語学学校は 3 ヶ月 1

学期制で、その都度先生もクラスメートも変わり、新鮮な気持ちと適度な緊張感を保ったまま学習に取り組むことができました。1年間で4人の先生と4つのクラスに出会いましたが、どのクラスも仲が良く、それぞれの個性があり、授業に行くことが楽しみでした。先生にもクラスメートにも恵まれ、非常にラッキーな環境で語学能力を高めることができました。クラスメートとは放課後にご飯を食べたり各地に旅行に出かけたりして交流を深めました。彼らと話すことで各国の文化を知ることができ、また語学力も自然と磨かれていきました。

後半に通いだした大学では、「中國歴史故事」、「傳統文化」の2つの授業を履修しました。前者は中国の歴史的偉人に関する物語を読むという内容でした。硬い表現や難しい単語が頻出し、四字熟語を用いた比喻表現の多さにも驚きました。しかもクラスに交換留学生は私1人だけ。語学学校とは違う雰囲気にも不安を覚えました。転機は2回目の授業終わりでした。先生が私に「あなたにこの授業は難しい。履修するの？」と声をかけたのです。この言葉が不安でいっぱいだった私の心を変えました。「確かに授業のレベルは高いが、それだけの理由で貴重なチャンスを手放していいの？予習復習を徹底して、そして誰よりも良い成績を取ろう！」と決意しました。それからは前列の席に座り、一言も聞き漏らすまいと先生の声に耳を傾けました。つらい思いをすることもありましたが、諦めずに努力した結果、学期末には最高評価をいただくことができました。「よく頑張ったね」と先生から声をかけられたときには、本当に嬉しかったです。

次にクラブ活動についてです。師範大学から一駅離れた場所に台湾大学があるのですが、私はその中国楽器クラブに所属していました。現地の人に囲まれる環境に飛び込みたかったからです。しかし最初はみんなの輪に入れず、一言も発しないまま帰った日もありました。それでもクラブに通い続け、徐々に友達も増えていきました。特に仲良くしてくれた女の子とは、留学のこと、クラブのこと、将来のこと、色んなことを話しました。また、私は中阮という弦楽器を1年間練習したのですが、12月と6月の2度の部内発表会に出たことも良い経験になりました。

台湾での1年間は、楽しさや嬉しさばかりでなく、つらさも苦しさもありました。しかし今振り返ってみると、それら全てを含めて非常に充実した時間でした。今後はこの貴重な経験を胸に、残りの学生生活も有意義な時間になるよう努力していきたいと思います。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった関係者の方々、私の留学を応援してくださったみなさま、本当にありがとうございました。この記事を読んでくださったみなさま、拙い文章ですが少しでもお役に立てたなら幸いです。

(国際学部 国際文化学科 4年次在学学生)

(2016年03月24日原稿受理)

学生サロン 10 知求会ニュース第41号より現役学部生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

**キャリア指南12** 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

**フォーラム** 2016年の卯月を迎えて、皆様忙しいことと思います。(原稿集めに苦勞しています。)今回は投稿者が見つかりませんでしたので、未掲載になります。

### 国際学部学位授与式から

2013(平成25)年度より、学位記授与式において卒業論文を表彰する賞が設けられました。表彰者は以下の通りです。なお、特別賞は国際学部同窓会理事の**志村なぎさ**さんより授与されました。

国際学部

・総代1名

①菊地麻莉奈「戦時及び現代における特攻死の認識 —特攻心理の多様性及び複雑性と特攻死の美化を中心に—」清水奈名子研究室

・最優秀賞1名

①城田美好「義務教育課程における貧困の再生産と日本の「隠れストリート・チルドレン」—精神的貧困を抱える社会的排除の犠牲者についての考察—」清水奈名子研究室

・優秀賞3名

①菊地麻莉奈「戦時及び現代における特攻死の認識 —特攻心理の多様性及び複雑性と特攻死の美化を中心に—」清水奈名子研究室

②本多はるの「フェリックス・ヴァロットン—版画作品における19世紀パリの街路と室内—」田口研究室

③佐伯智美「高レベル放射性廃棄物の最終処分を巡るリスクコミュニケーションの可能性—フィンランド、スウェーデンを事例として—」高橋若菜研究室

・特別賞3名

①脇山瞳子「平和博物館による平和教育の特長・意義と課題」田巻研究室

②松原奈々「日本における性的少数者の人権保障に向けた教育の在り方—当事者生徒の『生きづらさ』と台湾における『性別平等教育』に焦点をあてて—」清水奈名子研究室

③辻 実央「韓国現代政治における地域感情—大統領選挙を手掛かりとして—」丁研究室

### 国際学研究科学位授与式から

2013(平成25)年度より、学位記授与式において修士論文を表彰する賞が設けられました。

表彰者は以下の通りです。

・学生賞 1名

- ①BRAVO KOHATSU JOSE RAUL 「次世代ペルー人の文化変容」～日本社会、小さなペルー、越境者を中心に～」 田巻研究室

・最優秀賞 1名

- ①LIU XIAO BIN 「Discourse analysis of Representation of Women in Japan: A Case Study of Non-no from Oct.2014 to Sept.2015」 モリソン研究室

・優秀賞 1名

- ①FANG TING TING 「中国人留学生における日本語の若者ことばに関する意識研究」 高山研究室

●お知らせ

第4回宇都宮大学ホームカミングデー開催日決定！ **2016年11月19日（土曜日）**  
大学祭の「峰ヶ丘祭」開催期間中に開催します。詳細は後日改めてお知らせしますが、来校の予定を皆様の手帳にご記入のほどお願いします。

**EU 支部だより**

第38号からイタリア在住の**松原真実子**さんによる知求会 EU 支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の17号の内容は、1 イタリア 名門ミランに名を刻む名手トップ10 2 EU 支部だより 一春になると思うことです。配信方法は、画像が掲載されているために別便で配信します。ファイル容量が大きいことで、ニュースレターが受信できない場合にはその状況をお知らせください。

編集者のひとりごと

● 本年は正月明けから体調をくずして、思うように編集に集中できなかったことと、近年メールでの原稿依頼がはかどりません。それは、メールでのやり取りに時間がかかったり、連絡が取れない状況があったためです。会員の皆様には重ねて、ネチケットに心を砕いていただくようお願いします。

---

編集後記：2010年4月26日から **知求会ニュースのバックナンバー**は **国際学部同窓会 HP** (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっています。

同窓会会員の皆様へのお願い：**住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。** [chikyukai@freeml.com](mailto:chikyukai@freeml.com)

---